

第5章 住環境に関する意識

5-1. 住みやすさ

5-2. 居留意向

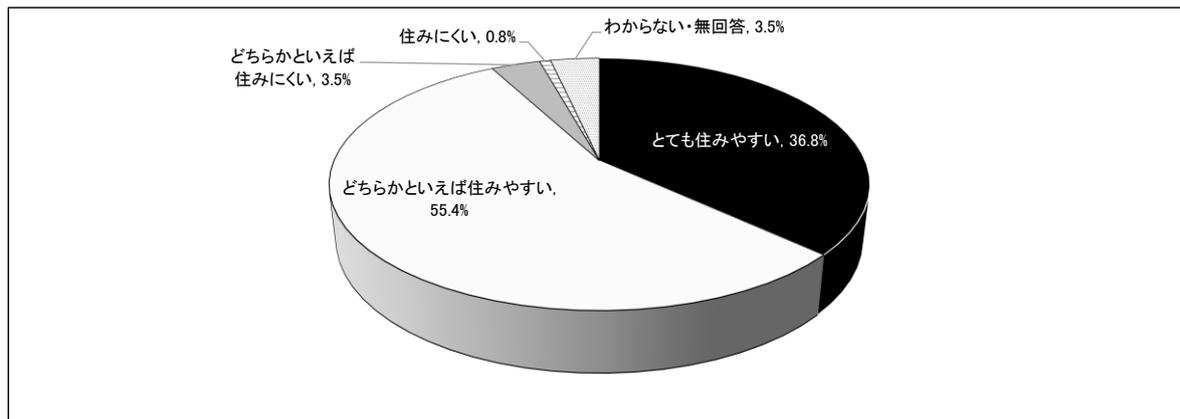
5-3. 住まいに関する意向

5-1. 住みやすさ

住みやすさへの評価は高い

住みやすさの評価を見ると、「とても住みやすい」と回答した割合は36.8%、「どちらかといえば住みやすい」は55.4%で、住みやすいと回答した割合は92.2%となっており、住みやすさへの評価はとても高い。

図5-1 住みやすさの評価



資料：令和元年度施策目標に関する市民意識調査結果

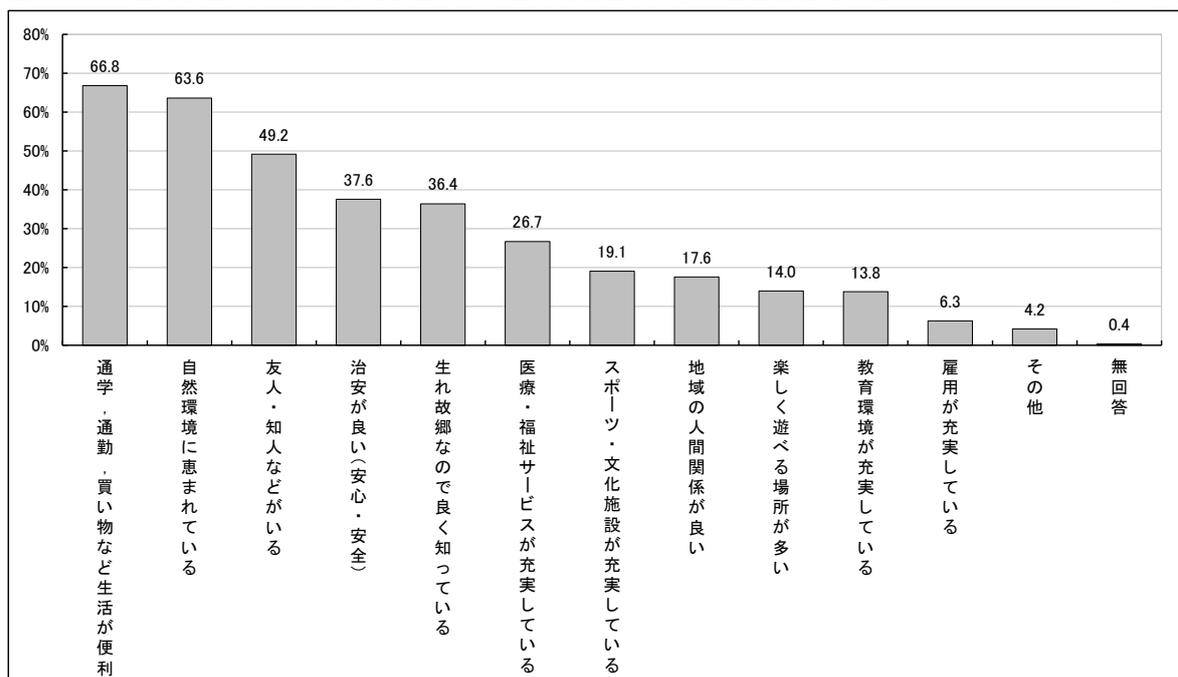
住みやすいと回答した理由は、日常生活の利便性や自然環境についての項目が高い

住みやすいと回答した人の理由を見ると、「通学, 通勤, 買い物など生活が便利」が66.8%と最も高く、次いで「自然環境に恵まれている」が63.6%となっており、日常生活における利便性や自然環境についての理由が高い。

一方、回答した割合が低い理由としては、「雇用が充実している」が6.3%で最も低く、次いで「教育環境が充実している」、「楽しく遊べる場所が多い」と、雇用や教育環境、レジャーなどに関する項目での割合が低い。

図5-2 とても住みやすい、またはどちらかといえば住みやすいと回答した理由

※複数回答

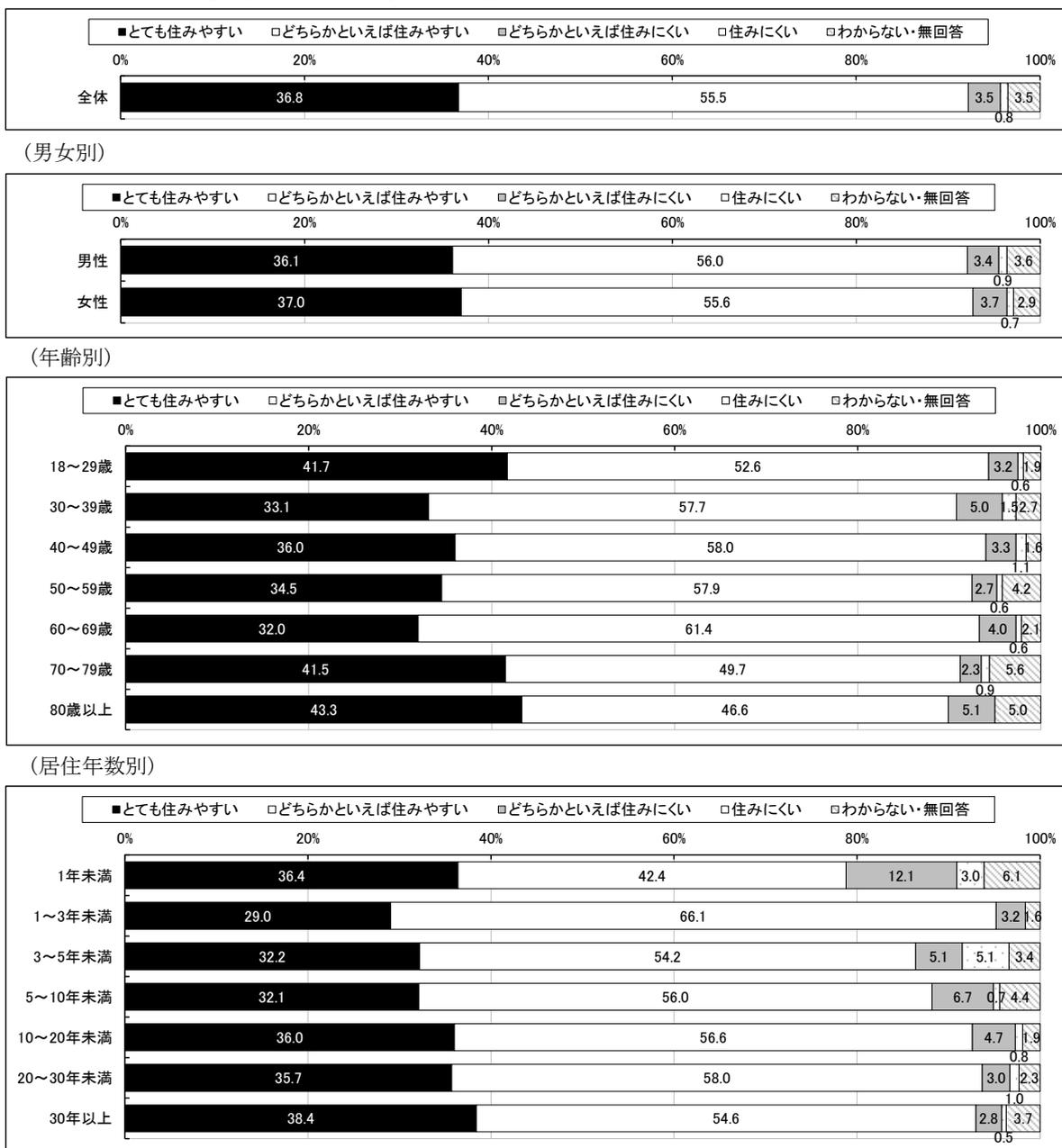


資料：令和元年度施策目標に関する市民意識調査結果

全体的に住みやすさへの評価は高い

住みやすさの評価について、「とても住みやすい」又は「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合を見ると、男性、女性ともに9割を超えている。年齢別では、18～29歳が94.3%と最も高く、若い世代の評価が高いことが分かる。居住年数別では、1～3年未満が95.1%と最も高い。なお、30年以上の場合も93.0%と、3年以上は、居住年数が長いほど住みやすさの評価が高い傾向にある。

図5-3 住みやすさの評価（全体、男女別、年齢別、居住年数別）



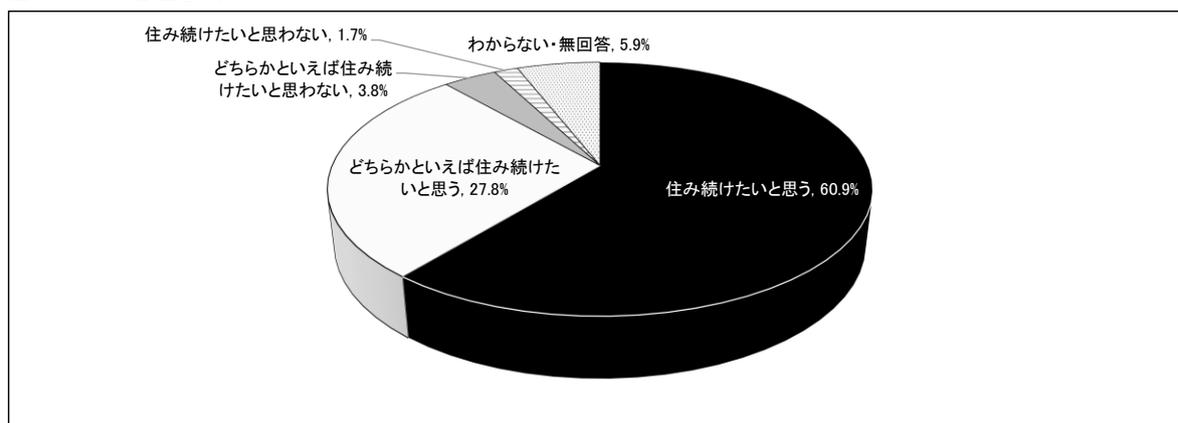
資料：令和元年度施策目標に関する市民意識調査結果

5-2. 居留意向

これからも居留意向のある市民は約9割

これからも本市に「住み続けたいと思う」という意向の割合は、全体の60.9%で、「どちらかといえば住み続けたいと思う」は27.8%となっており、約9割の市民は、これからも本市に住み続けたいという意向がある。

図5-4 居留意向

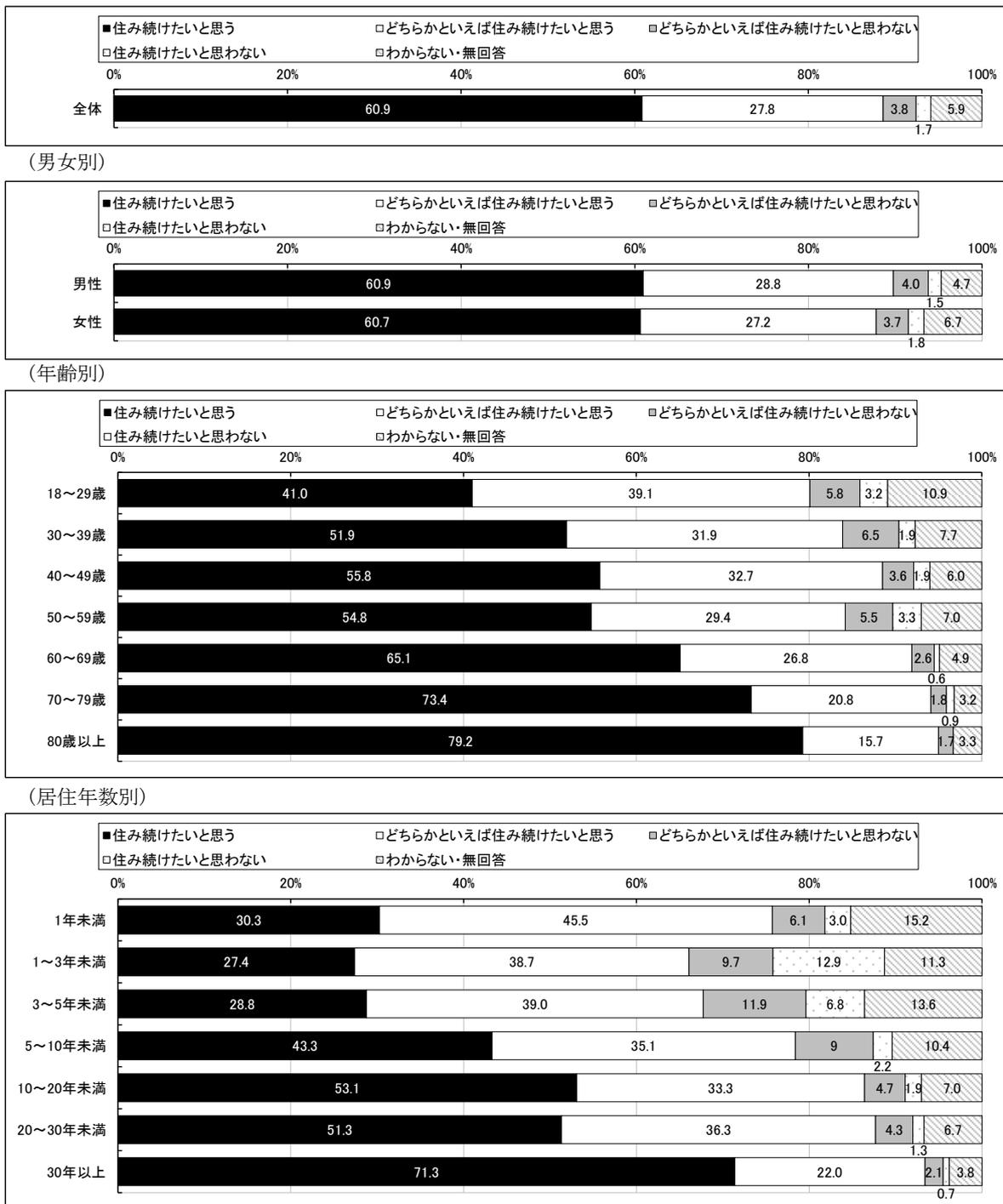


資料：令和元年度施策目標に関する市民意識調査結果

年齢が上がる、居住年数が長くなるにつれて、居住意向が高い

これからも本市に「住み続けたいと思う」又は「どちらかといえば住み続けたいと思う」という意向の割合について、男女別での差はあまり見られない。なお、年齢別では、年齢が上がるにつれて高くなる傾向があり、60歳以上では約9割を超えている。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれて割合が高くなり、10年以上では約85%となっており、年齢が上がる、居住年数が長くなるにつれて、住み続けたいという意向は、高くなる傾向にある。

図5-5 居住意向（全体、男女別、年齢別、居住年数別）



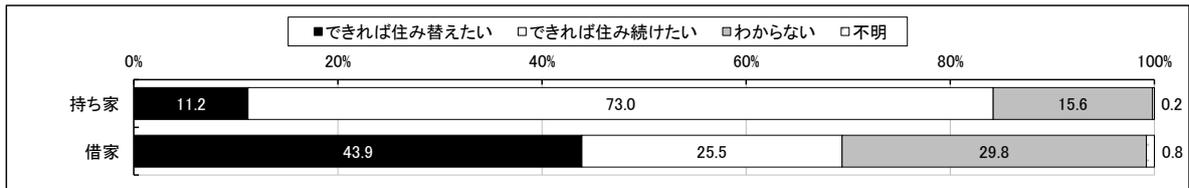
資料：令和元年度施策目標に関する市民意識調査結果

5-3. 住まいに関する意向

持ち家世帯の約7割はできれば住み続けたいという意向

今後の住み替え・改善意向を所有の関係別に見ると、「できれば住み替えたい」と回答した世帯について、持ち家で11.2%、借家では43.9%となっている。一方、「できれば住み続けたい」という回答では、持ち家では73.0%、借家では25.5%となっており、特に持ち家は住み続けたい意向が高い。

図5-6 所有の関係別の今後又は将来の住み替え・改善意向

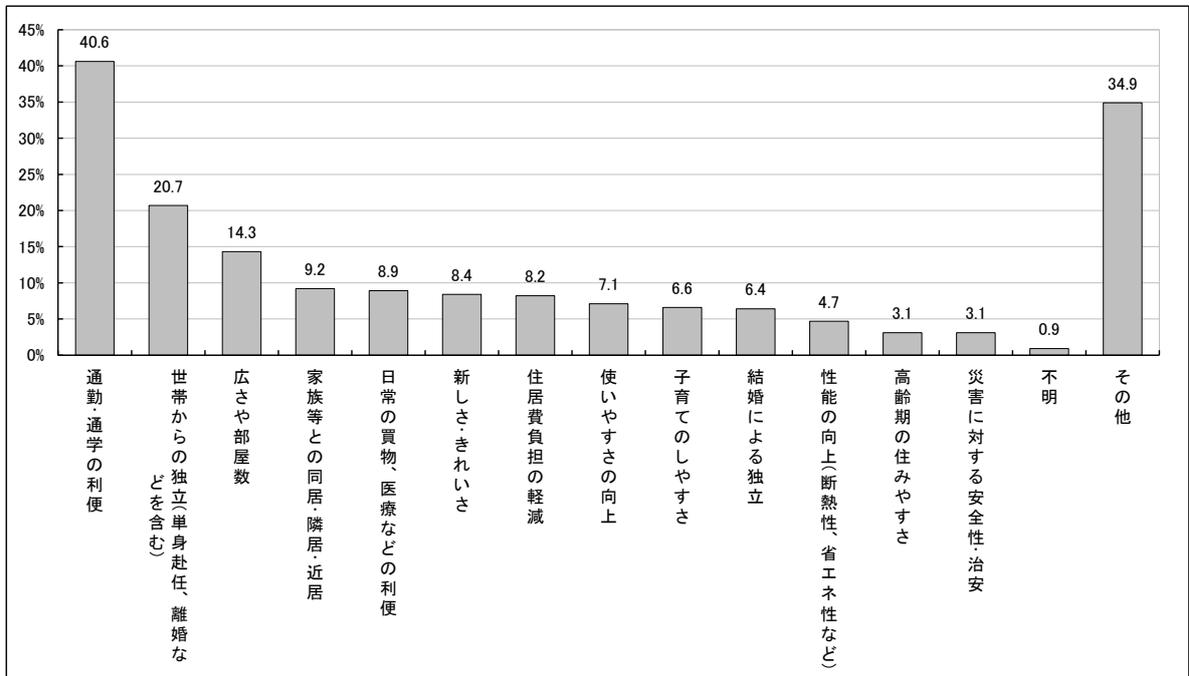


資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

住み替えの目的で最も多いのは「通勤・通学の利便」で約4割

最近5年以内に住み替えた世帯で、住み替えの目的として最も多かったのは、「通勤・通学の利便」で40.6%、次いで「世帯からの独立(単身赴任、離婚などを含む)」が20.7%、「広さや部屋数」が14.3%となっている。

図5-7 住み替えの目的(最近5年以内に住み替えた世帯)

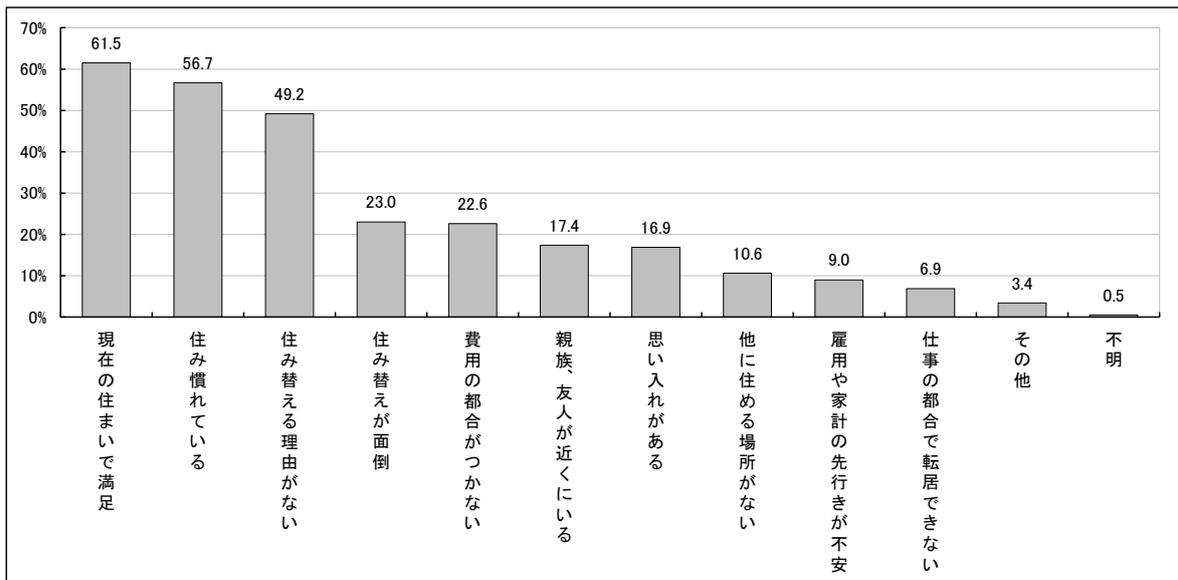


資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

住み替え意向がない理由としては、「現在の住まいで満足」と「住み慣れている」が約6割

住み替え意向がない理由として、最も多かったのが「現在の住まいで満足」で61.5%、次いで「住み慣れている」が56.7%、「住み替える理由がない」が49.2%となり、約6割の世帯は、現在の住まいに大きな不満を抱えていない傾向となっている。また、「住み替えが面倒」や「費用の都合がつかない」などが、住み替えを検討しているができない層が約2割はいる結果となっている。

図5-8 住み替え意向がない理由



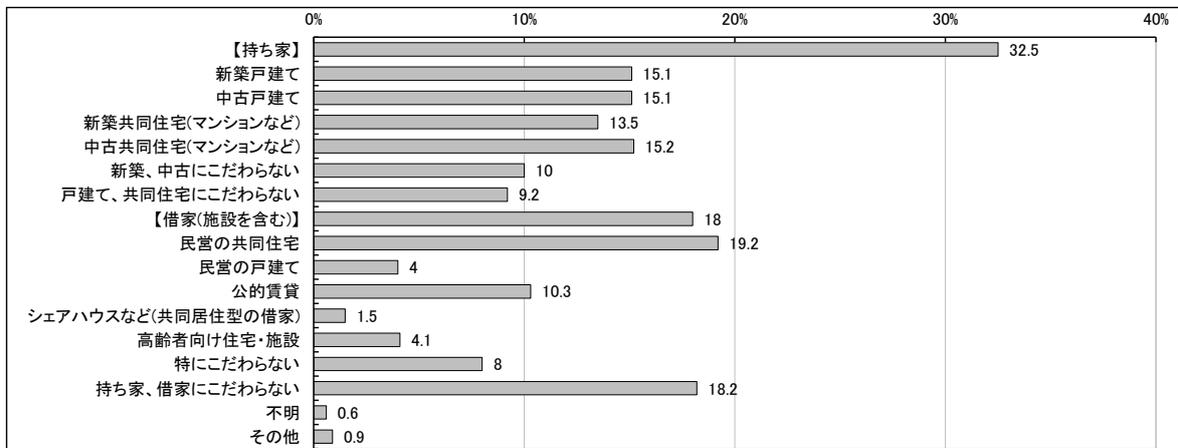
資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

住み替え先の意向では持ち家を希望する世帯が約3割と最も多い

住み替え後の居住形態の意向について、現在持ち家に居住する世帯の住み替えは「持ち家」が32.5%と最も高く、「借家（施設を含む）」は18.0%となっている。

図5-9 住み替え先意向

※複数回答

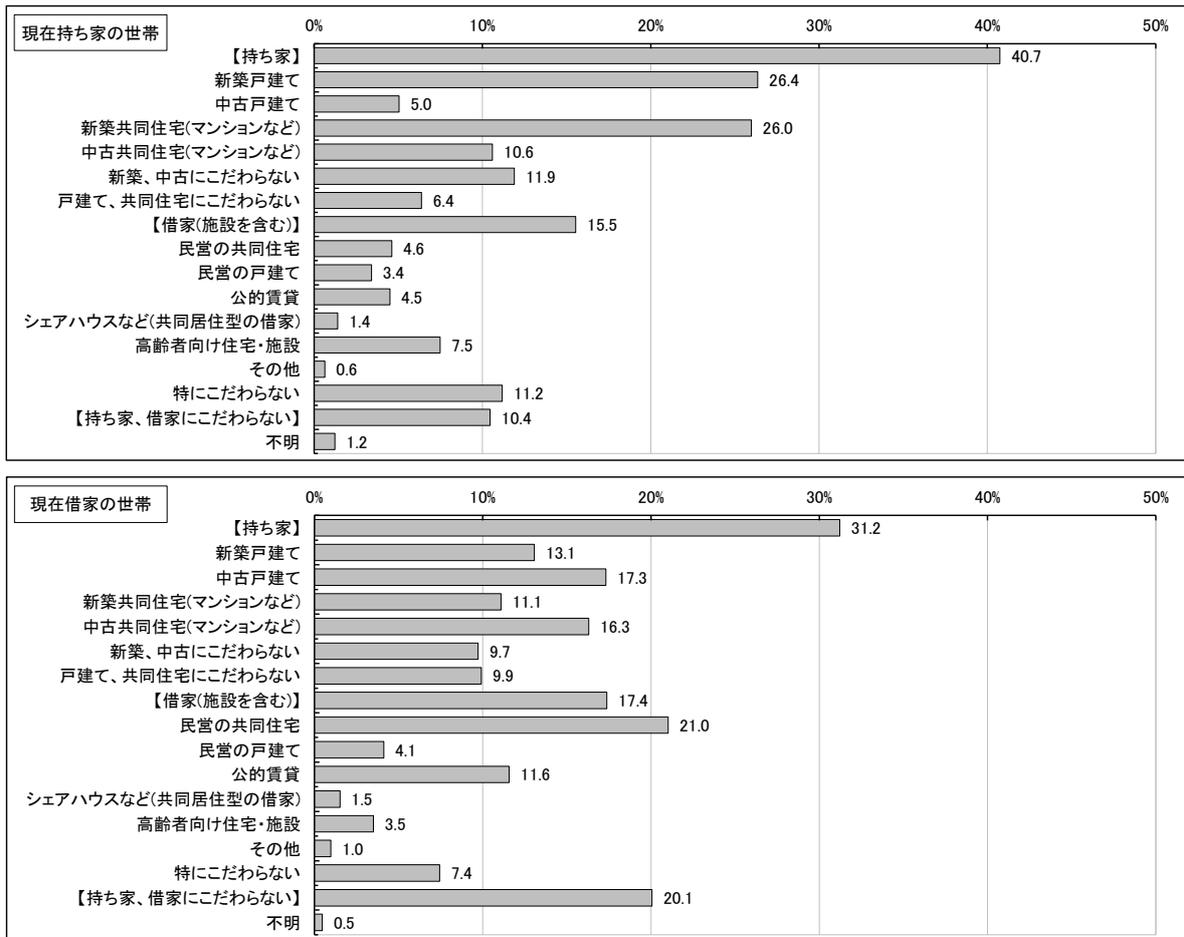


資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

持ち家・借家の世帯ともに持ち家への住み替え意向が高い

住み替え後の居住形態について、現在の所有の関係（持ち家・借家）別に見ると、現在持ち家に居住する世帯の住み替えは「持ち家」が40.7%と最も高く、「借家（施設を含む）」は15.5%となっている。また、現在借家に居住する世帯の住み替えは「持ち家」が31.2%と最も高く、「借家（施設を含む）」は17.4%となっている。持ち家、借家の世帯ともに持ち家に住み替えたい意向の割合が高い。

図5-10 住み替え先意向（現在の所有の関係別）

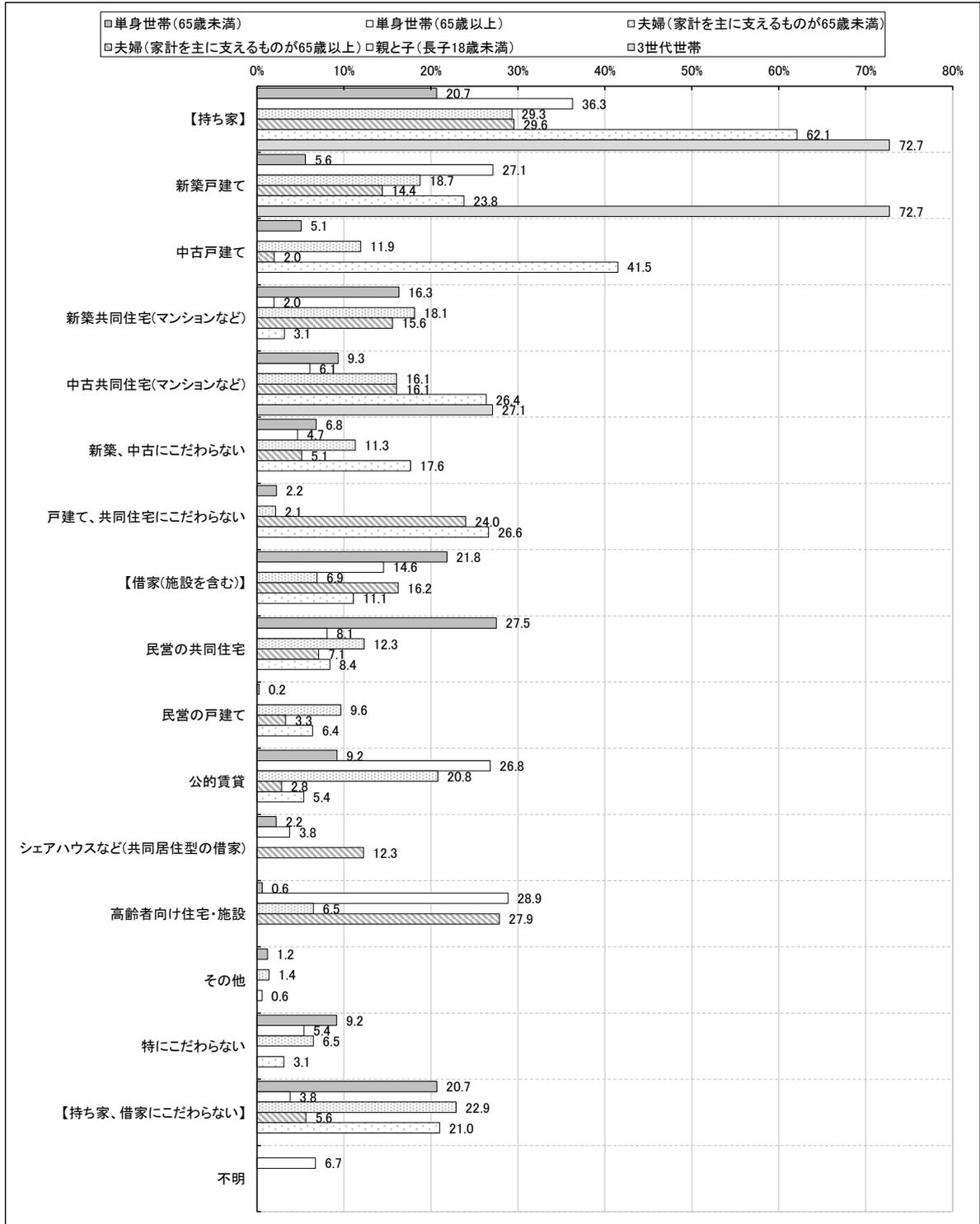


資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

持ち家への住み替え意向が高い

単身（65歳未満）の世帯は、借家の民営の共同住宅が最も多く27.5%となっている。一方、その他の家族類型別では持ち家への住み替え意向が高くなっている。

図5-11 住み替え先意向（家族類型別）

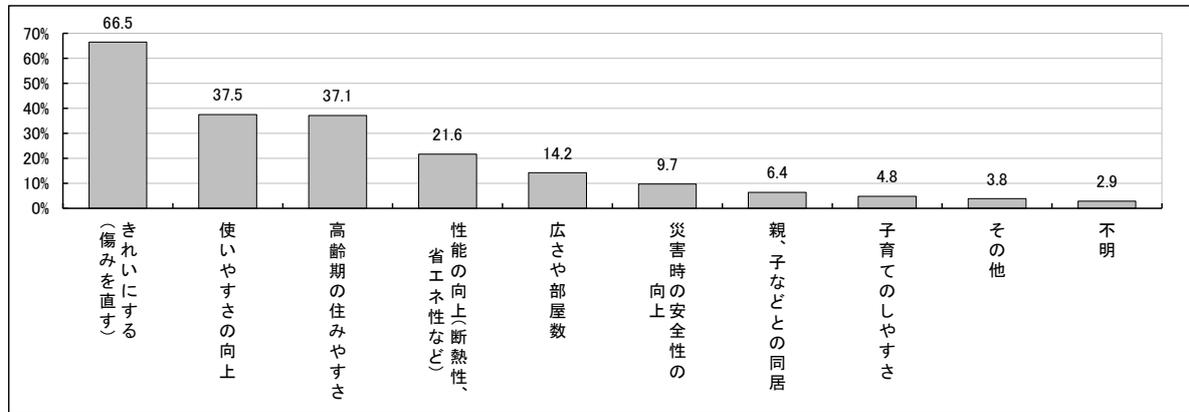


資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

今後の改善の目的は「きれいにする」が6割以上と最も高い

住宅の今後の改善の目的として、最も高いのは、「きれいにする（傷みを直す）」で66.5%、次いで「使いやすさの向上」が37.5%、「高齢期の住みやすさ」が37.1%となっている。

図5-12 今後の改善の目的

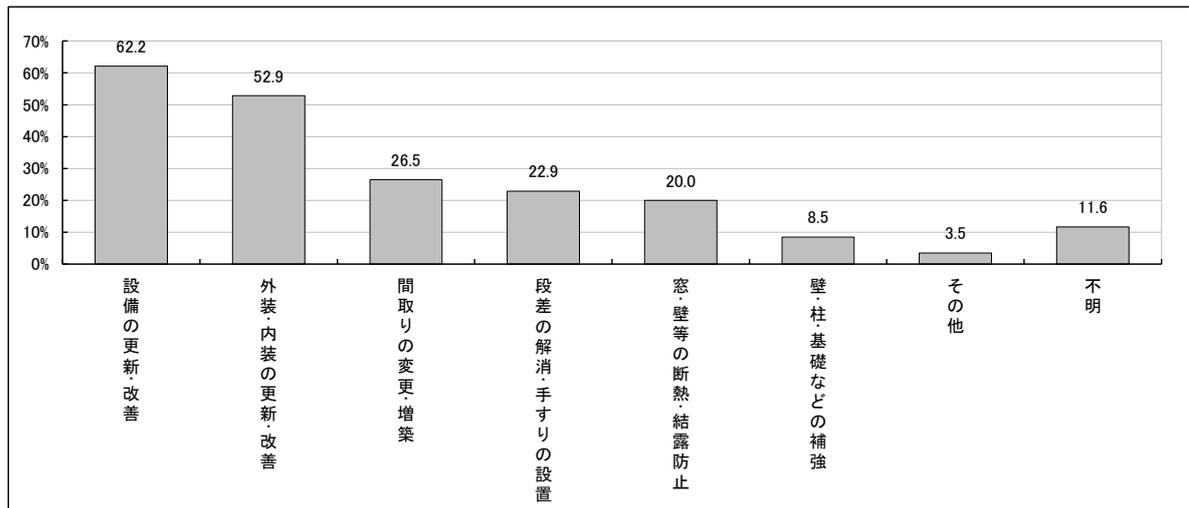


資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

今後のリフォームの内容は「設備の更新・改善」が6割以上と最も高い

今後のリフォームの内容として、最も高いのは、「設備の更新・改善」で62.2%、次いで「外装・内装の更新・改善」が52.9%となっている。また、「壁・柱・基礎などの補強」は8.5%となっており、構造面での補強を挙げた世帯は少なかった。

図5-13 今後のリフォームの内容

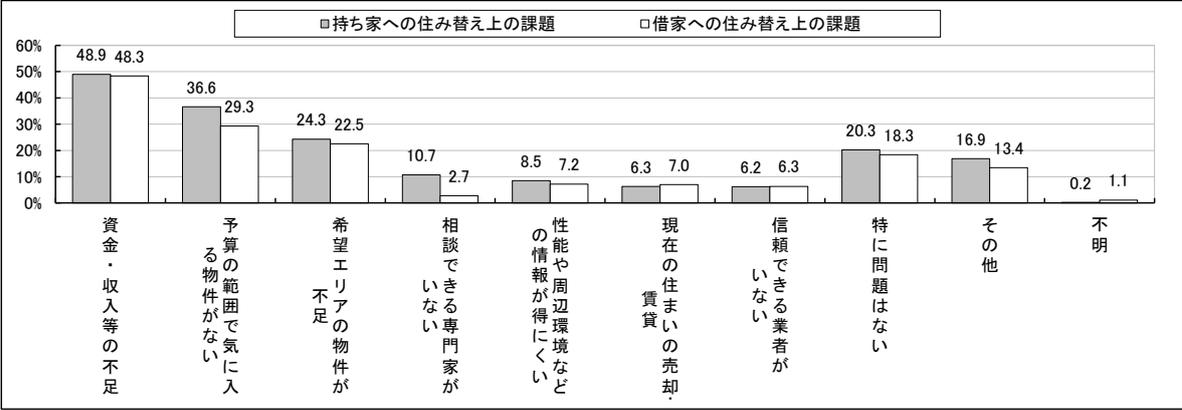


資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

住み替え上の課題は、持ち家、借家ともに「資金・収入等の不足」が約5割と最も高い

住み替え上の課題は、持ち家、借家ともに「資金・収入等の不足」が約5割と最も高い。なお、約2割が「特に問題はない」としている。

図5-14 所有の関係別住み替え上の課題



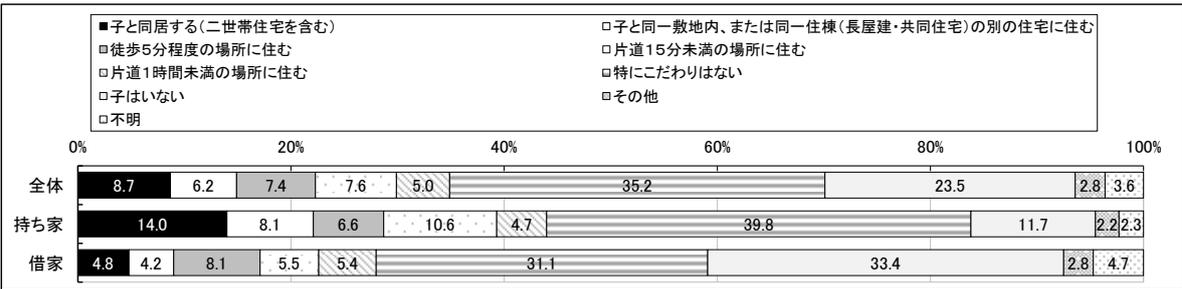
資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)

子と同居又は近くに住みたいと考えている世帯が多い

子との住まい方の意向について、「特にこだわりはない」とする世帯の割合は全体で35.2%と最も多いが、子と同居又は近くに住みたいと考えている世帯も34.9%と同程度の割合となっている。

所有の関係別に見ると、持ち家は、子との同居又は近居を考えている世帯は44.0%であり、特に「子と同居する」意向の世帯が14.0%と最も多い。一方、借家は、「子はいない」世帯が33.4%と最も多い。また、同居又は近居を考えている世帯のうち「徒歩5分程度の場所に住む」意向が最も高くなっている。

図5-15 持ち家・借家別の子との住まい方意向



資料：平成30年住生活総合調査結果(仙台市)